連携講座　③－１【聖路加国際大学】　定員28名

◆住み慣れた場所で健康に暮らそう

主　題　高齢化社会と呼ばれる日本社会の人口構成の変化は他のどの国よりも短期間で起こっています。団塊の世代が75歳以上となる2025年以降は医療や介護の需要が、さらに増えることが見込まれています。

この講座ではこの問題を身近にとらえ、高齢になっても住み慣れた地域で暮らすために知っておきたいことやからだをいたわり養生する方法など病気の有無にかかわらず、その人なりの健康な暮らしについて皆で考え、学びます。演習では介護予防のための運動やヨーガを取り入れたからだの動かし方を実践します。

講座番号　③－１

時　間：午後６時～７時30分
場　所：聖路加国際大学２号館
回　数：５回
受講料：1,500円

※第２回、第４回、第５回はからだを動かしやすい服装を準備してください。
（更衣室で着替えることもできます。）

回数	日程	講義内容	講師名
第１回	9/13（水）	「ほぼ在宅、時々入院の老後」を自分で作り出す方法	山田　雅子
第２回	9/27（水）	ロコモティブシンドロームについて―健康寿命と運動のススメ―	前田　洋平
第３回	10/11（水）	からだの不調とのつきあい方、セルフケア	津田　篤太郎
第４回	10/25（水）	生活にヨーガを取り入れて介護予防①	花村　睦
第５回	11/　8（水）	生活にヨーガを取り入れて介護予防②	

講師紹介

山田　雅子（やまだ　まさこ）

聖路加国際大学教授、同大学教育センター生涯教育部部長。聖路加看護大学卒業後、聖路加国際病院、セコム在宅医療システム㈱、セコメディック病院、厚生労働省を経て、2007年より現職。在宅看護の発展を願って、長年さまざまな立場で取り組んでいる。現在、認知症の母を介護中。

前田　洋平（まえだ　ようへい）

聖路加国際病院リハビリテーション科アシスタントマネジャー、理学療法士。広島大学医学部保健学科卒業後、聖路加国際病院リハビリテーション科入職。主に脳血管疾患、運動器疾患、糖尿病などを担当。週に一回、訪問リハビリテーションにも従事している。

津田　篤太郎（つだ　とくたろう）

聖路加国際病院リウマチ膠原病センター副医長。天理よろづ相談所病院、東京女子医科大学、北里大学大学院医療系研究科（東洋医学）、ＪＲ東京総合病院を経て2014年より現職。日本リウマチ学会専門医、日本東洋医学会漢方専門医。西洋医学と漢方の双方を生かす医療をめざしている。

花村　睦（はなむら　むつみ）

ハタヨーガ・ティーチャー。立教大学・日本女子大学卒業。米国・インドでヨーガを学び、「聞き合うコト・つなぐコト」をテーマに、ヨーガやコミュニケーションの講座を開催。誰にでも分かりやすい方法で、ハタヨーガストレッチと瞑想を行う。

会場図

中央区築地３－８－５
☎6226－6388

連携講座　③－2【三井記念美術館】　定員40名

◆展覧会を観る

主　題　三井記念美術館が開催する平成29年度後半の展覧会に合わせ、企画担当者がそれぞれの専門の立場から講義を行います。

2時間のうち1時間が講義、あとの1時間が展覧会の自由見学です。

※はじめて受講される方が優先されます。
※当日欠席者には、翌日以降の平日午前9時～午後5時に、区役所6階文化・生涯学習課生涯学習係で入場券をお渡しします。

講座番号　③－2

時　間：午後2時～4時
場　所：三井記念美術館
回　数：3回
受講料：900円
入館料：2,100円（3回分）

回数	日程	講義内容	講師名
第1回	11/ 7（火）	特別展　驚異の超絶技巧！ －明治工芸から現代アートへ－	小林　祐子
第2回	1/16（火）	国宝　雪松図と花鳥 －美術館でバードウォッチング－	清水　実
第3回	3/ 6（火）	三井家のおひなさま	小林　祐子

講師紹介

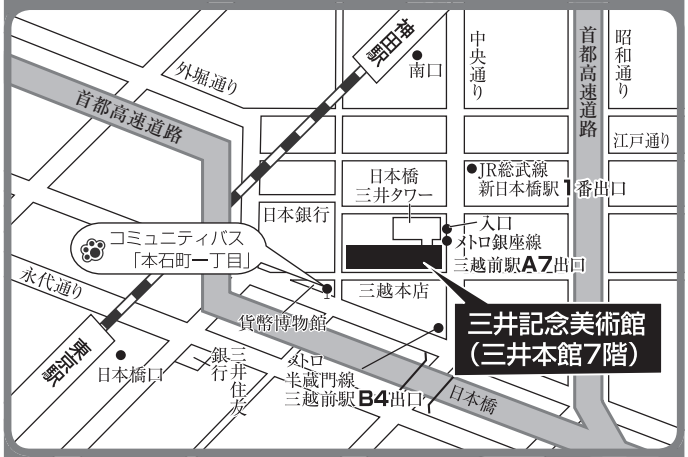
小林　祐子（こばやし　ゆうこ）

三井記念美術館主任学芸員。学習院大学大学院人文科学研究科博士後期課程単位取得退学。財団法人永青文庫学芸員を経て2004年10月から現職。専門は日本漆工史。

清水　実（しみず　みのる）

三井記念美術館学芸部長。國學院大學史学科卒業。専門は宗教美術史・文化史、茶道美術。

会場図



中央区日本橋室町2－1－1 三井本館7階
☎5777－8600

三井記念美術館　展覧会スケジュール

特別展　驚異の超絶技巧！ －明治工芸から現代アートへ－

2017年9月16日（土）～12月3日（日）

2014年に開催し大好評を博した「超絶技巧！明治工芸の粋」展の第2弾。今回は七宝、金工、牙彫、木彫、陶磁などの明治工芸と、現代アートの超絶技巧がコラボレーション。明治工芸を産み出した工人たちのDNAを受け継ぎつつ、プラスαの機知を加えた現代作家の作品に瞠目すること間違いなし！

国宝　雪松図と花鳥 －美術館でバードウォッチング－

2017年12月9日（土）～2018年2月4日（日）

国宝 雪松図屏風の新春公開に合わせ、館蔵品の中から、今回は花鳥、なかでも「鳥」に焦点をあわせた展覧会です。鳥に関連した茶道具や工芸品、花や鳥が描かれた屏風や掛軸を展示しますが、「鳥の三井さん」として知られた新町三井家の高遂（たかなる）氏が収集した渡辺始興筆「鳥類真写図巻」や同じく始興筆の花鳥図で新寄贈作品などを展示します。美術館でのバードウォッチングをお楽しみください。

三井家のおひなさま　特集展示　三井家と能

2018年2月10日（土）～4月8日（日）

毎年恒例となりました、日本橋に春の訪れを告げる「三井家のおひなさま」展。三井家の夫人や娘たちがこよなく愛した、ひな人形・ひな道具の華麗なる競演をお楽しみください。

展示室7では特集展示「三井家と能」と題し、三井家と能楽の関わりを作品と資料でご紹介します。

連携講座　③－3【松竹株式会社】　定員80名

◆歌舞伎ものしり講座

託児付
【対象】
2歳半～
未就学児
11/16観劇時を除く

主　題　歌舞伎は江戸時代の日本人が創り出したエンターテイメントの最高傑作と言えるでしょう。そこには優れた色彩感覚や音楽、言葉の遊びが溢れ、綿密に練り上げられたストーリーは自由奔放に展開し、時には奇想天外な楽しさで観客を魅了します。その主役はなんといっても、舞台で華やかなオーラを放つ歌舞伎俳優たち。時代を超えて、脈々と受け継がれてきた芸は、観客からパワーを得てますます輝き出す……、だから歌舞伎は面白い！

今回の講座では、歌舞伎座一等席での観劇（11月公演）を通して歌舞伎の楽しさを体感していただきます。

講座番号　③－3

時　間：午後2時30分～4時
※第4回は午後2時30分～9時
場　所：築地社会教育会館ほか
※第4回は講義後、歌舞伎座
回　数：5回
受講料：2,500円
観劇料：14,000円

※初めて受講される方が優先されます。
※第1回～5回のうち1回にゲストをお招きする予定です。ゲストの都合により、講座内容が入れ替わる場合がありますので、ご了承ください。

回数	日程	講義内容	講師名
第1回	10/ 5（木）	女方の系譜	金田　栄一
第2回	10/19（木）	歌舞伎と傘	
第3回	11/ 2（木）	江戸の用語あれこれ	
第4回	11/16（木）	観劇の手引きと観劇	
第5回	11/30（木）	高麗屋と幸四郎襲名	

講師紹介

金田　栄一（かねだ　えいいち）

歌舞伎座舞台（株）顧問。大学在学中は歌舞伎研究会に所属し、1971年立教大学卒業後、松竹株式会社入社。歌舞伎座宣伝課長、副支配人、支配人、演劇本部ゼネラルマネジャーを経て、2005年5月から（株）伝統文化放送代表取締役社長就任。2008年から歌舞伎座舞台（株）代表取締役社長、2012年から現職。

歌舞伎座外観

会場図（第4回講義終了後）

中央区銀座4－12－15

連携講座　③－4【慶應義塾大学 斯道文庫】　定員30名

◆日本の書物～奈良から明治まで～

講座番号　③－4

時　間：午後6時30分～8時
場　所：築地社会教育会館
回　数：5回
受講料：1,500円

主　題　慶應義塾大学附属研究所斯道文庫（しどうぶんこ）は、日本および東洋の古典の研究を専門としています。全国各地にある古い書物を調査し、自らも購入や寄託・寄贈といった形で収集して、それらを比較検討し、書物にこめられた人々の思いをあきらかにしていこうとしています。

この講座では、そうした研究の成果を踏まえて、日本の書物がたどった歴史を、奈良時代から明治の初めまで見ていきます。

バラエティあふれる形と中身を持った日本の書物の面白さを感じていただければ幸いです。

回数	日程	講義内容	講師名
第1回	9/ 6（水）	書物のかたちと文字のさまざま	佐々木　孝浩
第2回	9/13（水）	僧侶の書物　～古代・中世～	高橋　悠介
第3回	9/20（水）	学者の書物　～古代・中世～	堀川　貴司
第4回	9/27（水）	庶民の書物　～江戸・明治～	一戸　渉
第5回	10/ 4（水）	学者の書物　～江戸・明治～	高橋　智

講師紹介

佐々木　孝浩（ささき　たかひろ）

慶應義塾大学附属研究所斯道文庫教授。慶應義塾大学文学研究科博士課程中退。博士（学術）。専門は日本古典書誌学および中世和歌文学。日本の古典時代の書物の形態の種類と、それらに保存される内容との関連性について研究している。著書に『日本古典書誌学論』（笠間書院）など。また雑誌連載に「書物の声を聞く―書誌学入門」（『書物学』勉誠出版）など。

高橋　悠介（たかはし　ゆうすけ）

慶應義塾大学附属研究所斯道文庫准教授。神奈川県立金沢文庫学芸員を経て現職。専門は日本中世文学・寺院資料研究。中世の寺院における学問や寺院資料の形成、仏教説話･芸能の成立背景などを研究している。著書に『禅竹能楽論の世界』（慶應義塾大学出版会）、「密教聖教のかたち―装訂・符牒をよむ」（『書物学』勉誠出版）など。

堀川　貴司（ほりかわ　たかし）

慶應義塾大学附属研究所斯道文庫教授。専門は日本漢文学・和漢書誌学。日本人が中国の書物をどのように読み解き、また漢詩や漢文を創作していったのか、そこには中国とは違う独自の展開があったのか、といったことを、書物や自筆資料などを用いて研究している。著書に『書誌学入門　古典籍を見る・知る・読む』（勉誠出版）、『五山文学研究―資料と論考―』（笠間書院）など。

一戸　渉（いちのへ　わたる）

慶應義塾大学附属研究所斯道文庫准教授。専門は日本近世文学・学芸史。日本の江戸時代において、自国を対象とした知的な営み、またその器としての書物がどのような環境のもとで産み出され、流通・展開していったのかの実証的な解明を研究テーマとしている。著書に『上田秋成の時代―上方和学研究―』（ぺりかん社）など。

高橋　智（たかはし　さとし）

慶應義塾大学文学部教授。専門は中国の古典籍である漢籍。漢籍は古来より江戸時代になっても、日本の文化を支える重要な役割をはたして来た。中国古典籍の、おもにテキスト（本）の成り立ちや流通について関心を持っている。著書に『海を渡ってきた漢籍―江戸の書誌学入門』（日外アソシエーツ）など。1986～87年上海に留学。古典籍を通じて日中の交流を深めている。

連携講座　③－5【認定特定非営利活動法人トリトン・アーツ・ネットワーク】　定員40名

◆「歌の翼に」を歌う体験つきで楽しむ、クラシック音楽講座
ドイツ歌曲（リート）の奥深い世界へ

主　題　大人気！ 音楽ホールでのクラシック鑑賞をより楽しむための体験つき講座です。今回のテーマは「ドイツ歌曲（リート）」。ドイツ・リートの歴史から、シューベルト、シューマン、ヴォルフの作品の魅力、歌とピアノの役割、他言語の歌曲との比較など、リートの奥深い世界に迫ります。有田栄（時々作曲家たちが憑依）による親しみやすい講義に、ドイツでリートを研鑽した英国出身のバリトン歌手アリスター・シェルトン＝スミスによる演奏、ホール見学、公開リハーサル、「歌の翼に」の歌唱体験がセットとなり、最終回は、実際に第一生命ホールで行われる世界最高峰のリート・デュオ「白井光子＆ハルトムート・ヘル」公演を楽しみます。

講座番号　③－5

時　間：午後2時～4時（第1・3回）／
　　午前10時～正午（第2回）／
　　午後3時～5時（第4回）
場　所：晴海トリトンスクエア
　　X棟会議室（第1・3回）／
　　第一生命ホール（第2・4回）
回　数：4回
受講料：2,000円
鑑賞料：5,500円

回数	日程	講義内容	講師名
第1回	9/ 9（土）	ドイツ・リートの世界への招待（ドイツ・リートとは？／リートの作曲家と名曲／ドイツ・リートと他言語の歌曲）	有田　栄 アリスター・シェルトン＝スミス 岡　純子
第2回	9/24（日）	リハーサル見学＆バックステージツアー／リートに心を託した作曲家たち（シューベルト、シューマンほか）	
第3回	10/14（土）	さらに、リートの世界の奥座敷へ―リートの発展と変容／アリスターとドイツ・リートを歌ってみよう！「歌の翼に」	
第4回	10/28（土）	公演鑑賞「リート・デュオによる『女の愛と生涯』」 出演：白井光子（メゾソプラノ）＆ハルトムート・ヘル（ピアノ）	

講師紹介

有田　栄（ありた　さかえ）

博士（音楽学）。東京藝術大学音楽学部楽理科、同大学院修士課程を経て、同博士後期課程修了。専門は西洋音楽史および現代の音楽・音楽美学。西洋芸術音楽における声の伝統をテーマに研究。他方で執筆や、ラジオ・TV音楽番組への出演、公開講座や講演を通じ、古楽から現代音楽までさまざまなジャンルの音楽の紹介に努めている。現在、昭和音楽大学教授。NHK-FM「オペラ・ファンタスティカ」番組パーソナリティ。近著『わからない音楽なんてない！子どものためのコンサートを考える』（アルテスパブリッシング）（共著）。

アリスター・シェルトン＝スミス

バリトン歌手。イギリス出身。ロンドンのロイヤル・カレッジ・オブ・ミュージックでK.ウーラムに学んだ後、ドイツのカールスルーエ音楽大学で白井光子、H.ヘルに、またオランダ国立オペラ・アカデミーでM.ホーニヒに師事。以後主にオペラの世界で活躍し、古典から現代まで幅広いレパートリーを持つ。オランダのベアトリクス女王70歳の誕生日記念コンサートでは、モーツァルトの《フィガロの結婚》でアルマヴィーヴァ伯爵役を演じたほか、リリック（抒情的）な声質を生かし、マーラーの《亡き子をしのぶ歌》、シューベルトの《冬の旅》などリートの歌唱にも定評がある。

岡　純子（おか　じゅんこ）

ピアニスト。大阪音楽大学卒業後、ジュネーブ音楽院で伴奏科のディプロム取得。ホルンのB.シュナイダー氏、オーボエのM.ブルグ氏の元で伴奏助手を務め帰国。軽井沢国際オーボエコンクール、草津夏期音楽アカデミー、浜松国際管楽器アカデミーなどの公式伴奏者。

認定NPO法人トリトン・アーツ・ネットワーク（TAN）とは

音楽活動を通じて地域社会に貢献する認定NPO法人です。晴海トリトンスクエア内にある第一生命ホールを拠点とし、ホールの主催公演である芸術活動と、周辺地域を中心としたコミュニティ活動を2本の柱として、会員とサポーター（ボランティア）、寄付者の支えを受けて活動している認定NPO法人です。

会場図

第1回、3回　中央区晴海1－8－10
第2回、4回　中央区晴海1－8－9

連携講座　③－6【松竹株式会社】　定員40名

◆映画おもしろ講座
～松竹の銀幕を飾った名俳優たち～

主　題　トーキー映画やカラー映画を日本で初めて手がけた松竹株式会社。常に新しい挑戦を続け、小津安二郎・木下恵介・山田洋次などの秀でた監督たちとともに、いまだ風化せずに残り続ける作品を製作してまいりました。

そんな松竹映画に欠かせないのが、数々の日本映画史に名を刻む名優たち。銀幕の中で、彼らが演じる人間たちの喜怒哀楽や、歌い踊る姿、さまざまなドラマに私たちは何度も心を動かされてきました。

今回はそんな銀幕の俳優たちから日本映画を紐解いていきます。

この講座でもおなじみの田中康義先生が経験した、さまざまなエピソードを交えた講義をどうぞお楽しみください。

また、本講座をより深く味わうことのできる「女優・倍賞千恵子特集上映」が2017年9月2日（土）から29日（金）までの間、神保町シアターで上映されます。詳細はホームページ　http://baisho-chieko-movie.jp/をご覧ください。

講座番号　③－6

時　間：午後2時～4時
場　所：築地社会教育会館
回　数：3回
受講料：900円

回数	日程	講義内容	講師名
第1回	9/10（日）	女優・倍賞千恵子とSKD	田中　康義
第2回	9/17（日）	SKDと宝塚、そしてNDT	
第3回	9/24（日）	松竹オールスター俳優	

講師紹介

田中　康義（たなか　こうぎ）

映画監督。日本映画監督協会会員。東京大学経済学部卒。松竹大船撮影所に入社後、小津安二郎作品などの助監督を務める。「ケメ子の唄」で初監督。ほかに「天使の誘惑」「夕月」など。のちプロデューサーに転じ「配達されない三通の手紙」「ダウンタウンヒーローズ」などを手掛ける。小津安二郎生誕九十年を記念したドキュメンタリー「小津と語る」を監督。『松竹百年史』『松竹百十年史』を執筆編集。

『男はつらいよ』山田洋次監督（1969）@松竹株式会社

『踊りたい夜』井上梅次監督（1963）
@松竹株式会社

連携講座　③－7【小津和紙】　定員30名

◆暮らしと心を豊かにする和紙

主　題　創業364年目を迎える小津和紙。6坪の和紙の商いから始まり、現在の暮らしに役立つ不織布に至るまで、その変遷と歴史をたどります。今回は、和歌山県で戦後長い間途絶えていた山路紙を復活させ、和歌山県の名匠に選ばれた紙漉きの作家さんをお招きして、お話を伺います。また、この和紙を使って御朱印帳を作り、紙の美しさを体験していただきます。最後におひとりずつ紙を漉いて、和紙のぬくもりを体感していただく盛りだくさんの講座です。

講座番号　③－7

時　間：午後3時30分～5時30分
場　所：日本橋小津和紙
回　数：4回
受講料：1,200円
材料費：1,000円
紙漉き：500円

回数	日程	講義内容	講師名
第1回	9/12（火）	小津の歴史と変遷／小津史料館見学	小西　良明
第2回	9/26（火）	龍神村の山路紙と和歌山の紙漉きについて	奥野　誠
第3回	10/10（火）	草木染の話と、山路紙で御朱印帳作り	奥野　佳世
第4回	10/24（火）	紙漉き体験と小津和紙照覧他、館内案内	高木　清

講師紹介

小西　良明（こにし　よしあき）

株式会社小津商店小津史料館副館長。1983年小津紙商事㈱入社。不織布及び関連製品の販売、品質管理、薬事ほか担当。医療機器製造販売責任者、化粧品製造販売責任者、ISO9001事務局、ISO14001部署長、小津和紙店長など歴任。歴史系博物館活動支援認証取得。2017年3月より現職。

奥野　佳世（おくの　かよ）

1975年武蔵野美術大学卒業後、大阪の公立中学、高等学校にて美術指導。1984年アートスペース虹（京都）にて個展。龍神村に移住、村おこしの活動を始める。紙漉き、草木染による創作活動を開始、現在に至る。1992年から東京、和歌山、大阪などにて展覧会開催。2012～14年草木染和紙薄様の研究と製作（公益財団法人ポーラ伝統文化振興財団助成）。

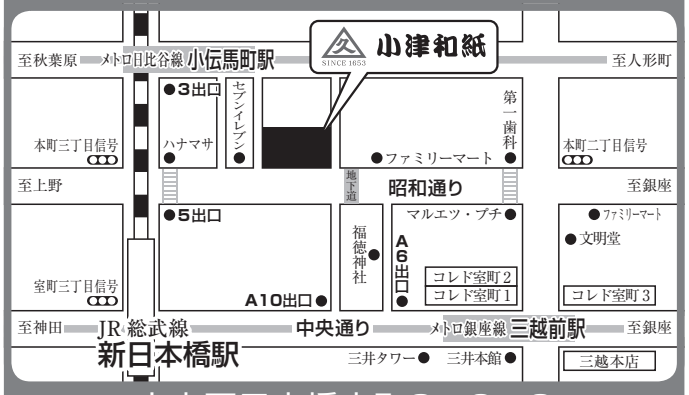
奥野　誠（おくの　まこと）

1975年武蔵野美術大学卒業後、大阪にアトリエを構え、関西、東京を中心に作品を発表。1984年龍神国際芸術村へ移住、その運営に携わり、紙漉きを始める。2006・07年和歌山大学紀南サテライト授業「現代社会と紙漉き」開講。2008年山路紙紙漉き工房開設。2013年龍神国際芸術村開村30周年記念芸術祭「Art in龍神村」開催。2016年和歌山県名匠表彰を受ける。

高木　清（たかぎ　きよし）

小津和紙副店長、小津和紙広報担当。1960年生まれ。1983年小津産業株式会社入社後、不織布による工業用ワイパーの企画販売、不織布による生活雑貨品の企画販売、機械抄き和紙による産業原紙の企画販売を担当。2009年株式会社小津商店へ移籍。小津和紙にて手漉き和紙及び機械抄き和紙の販売を担当。現在手漉き和紙体験工房指導員を兼ねる。

会場図



中央区日本橋本町3－6－2

小津和紙　展覧会スケジュール

9/11（月）～ 9/16（土）　フォーカス
美濃手すき和紙展vol.3
9/26（火）～ 9/30（土）　第9回竹倫書展
10/ 9（月）～10/14（土）　料紙技術の再興
－田中親美・縣治郎・大貫泰子へ－
10/23（月）～10/28（土）　「希夷斎の奇異祭」
篆刻・刻字展

連携講座　③－8【近畿大学】　定員40名

◆時を超えて命を紡ぐ生命科学研究の最前線

講座番号　③－8

時　間：午後2時～3時30分
場　所：築地社会教育館
回　数：3回
受講料：900円

主　題　近畿大学生物理工学部・大学院生物理工学研究科と先端技術総合研究所は、和歌山キャンパスに1993年創設以来、21世紀COEプログラム「食資源動物分子工学研究拠点」などの先進的な研究教育活動を通じて、動物生命科学領域の研究を展開しています。

この講座では、これまでの研究成果から、（1）現代の絶滅危惧種の再生につながる、マンモスの復活を試みる「近畿大学マンモスプロジェクト」研究、（2）再生医療分野への適用を目指して、分化した細胞を未分化状態にする“初期化”現象の分子機構を解明する研究、そして（3）最先端のイメージング技術によって、生きたまま、受精卵で起きている生命現象を観察し、その情報を不妊治療に応用する研究を選んで、研究成果の現状と今後の展開についてわかりやすく紹介いたします。

講座におけるもう一つのキーワードは、受精卵・初期胚・生殖細胞です。これらの細胞は、私たちが持っている細胞の中で唯一の“生命を継承できる細胞”です。この“時を超えて命を紡ぐ働きを持つ”細胞に魅了された研究者の講演を楽しんでいただきたいと思います。

回数	日程	講義内容	講師名
第1回	10/ 7（土）	マンモスの発掘とその再生を求めて ～古代動物再生の試み～	加藤　博己
第2回	10/14（土）	クローン動物から再生医療へ ～細胞の初期化がもたらす未来～	宮本　圭
第3回	10/21（土）	受精卵の発生シーンをよく見て不妊を知る	山縣　一夫

講師紹介

加藤　博己（かとう　ひろみ）

近畿大学先端技術総合研究所教授。京都大学農学部卒業。京都大学農学研究科博士課程修了、博士（農学）。コロラド州立大学AnimalReproductionandBiotechnologyLaboratoryポスドク、近畿大学生物理工学研究所講師などを経て、2013年より現職。大型家畜動物の繁殖に関する研究や、シベリアの永久凍土中から発見される古代動物の再生に関わる研究を行ってきた。

宮本　圭（みやもと　けい）

近畿大学生物理工学部講師。京都大学農学部卒業。京都大学農学研究科博士後期課程修了、博士（農学）。ケンブリッジ大学ガードン研究所博士研究員・ケンブリッジ大学ウォルソンカレッジフェローなどを経て2015年より現職。クローン動物が誕生する仕組みを研究し、細胞の初期化に関わる因子を同定してきた。

山縣　一夫（やまがた　かずお）

近畿大学生物理工学部准教授。筑波大学生物資源学類卒業。1999年博士（農学、筑波大学）取得。筑波大学生命環境科学研究科講師、理化学研究所発生・再生科学総合研究センター研究員、大阪大学微生物病研究所特任准教授などを経て現職。学生より一貫して哺乳動物の生殖に関わる研究を行ってきた。

連携講座　③－9【奈良まほろば館】　定員35名

◆日本の文化・歴史の始まりの地　奈良
～知れば知るほどおもしろい奈良と伝統芸能の歴史～

主　題　近年、歌舞伎、能、狂言といった伝統芸能がマスコミで取り上げられる機会も増え、人々の関心が高まっています。

奈良は、「伎楽」「舞楽」「猿楽（能）」をはじめとする日本の伝統芸能にゆかりの深い土地で、日本の文化・歴史の始まりの地です。

この講座では、奈良と伝統芸能の深い関わりについて学んでいただくとともに、現在第一線で活躍中の能面打による貴重なお話も聴いていただきます。

講座番号　③－9

時　間：午後2時～3時30分
場　所：奈良まほろば館2階
回　数：4回
受講料：1,200円
定　員：35名
（35名は中央区、35名は奈良まほろば館で募集）

回数	日程	講義内容	講師名
第1回	10/ 8（日）	伎楽伝来と万葉歌	井上　さやか
第2回	11/ 5（日）	能は奈良で生まれた－能を育んだ寺社の文化	宮本　圭造
第3回	11/19（日）	仮面芸能の潮流－伎楽面・舞楽面・能面	藤原　千沙
第4回	12/ 3（日）	内藤家伝来能面とその作者たち	見市　泰男

講師紹介

井上　さやか（いのうえ　さやか）

奈良県立万葉文化館指導研究員。博士（文学）。専門分野は『万葉集』を中心とした日本文学。著書に『山部赤人と叙景』（新典社）、『万葉集からみる「世界」』（新典社新書）がある。『マンガで楽しむ古典 万葉集』（ナツメ社）監修。論文に「『万葉集』と伎楽―奈良の文化資源を掘り起こす―」（『万葉古代学研究年報』11号）など。

藤原　千沙（ふじわら　ちさ）

能面打。嵯峨美術短期大学で日本画と古画の模写を学ぶ。卒業後、文化財の保存修復に従事。2004年能面打の見市泰男師に弟子入り、2016年独立。能面の修復・制作を行う。2010年より新作能のプロジェクトに参加し創作面を制作。著書に『新作能マクベス』「新作能マクベスの能面」（和泉書院）。

宮本　圭造（みやもと　けいぞう）

能楽研究者、野上記念法政大学能楽研究所教授。1994年岩手大学人文社会科学部卒業、2000年大阪大学大学院文学研究科博士後期過程修了。日本学術振興会特別研究員、大阪学院大学国際学部講師・助教授を経て、2009年に法政大学能楽研究所准教授、2013年に法政大学能楽研究所教授に就任。2005年第31回日本古典文学会賞、2006年第38回河竹賞・第1回林屋辰三郎藝能史研究奨励賞、2007年第28回観世寿夫記念法政大学能楽賞を受賞。著書に『上方能楽史の研究』（和泉書院）など。

見市　泰男（みいち　やすお）

能面打。1950年大阪市生まれ。大阪府立北野高等学校卒業。能面打・石倉耕春に師事。文化財保存修復学会会員。能楽学会会員。京都嵯峨芸術大学大学院非常勤講師。古能面修復事例約一千点以上を数える。著書に『能面の世界』（平凡社）など。

会場図

【交通】■地下鉄 銀座線・半蔵門線「三越前駅」A1 出口
■東京駅八重洲口からメトロリンク日本橋（無料バス）「地下鉄三越前駅」下車

中央区日本橋室町1－6－2
日本橋室町162ビル2F　☎3516－3931

奈良まほろば館での募集　35名

定員の半数は奈良まほろば館で募集します。区外の方もお申し込みできます。

申込方法

奈良まほろば館のホームページ「講座案内」
（http://www.mahoroba-kan.jp/course.html）
の申込フォームまたは往復はがきで
（記載事項は本誌2ページ、記入例の①～⑦）
8月17日（必着）までに申し込む。

申し込み先

〒103-0022
中央区日本橋室町1-6-2
奈良まほろば館

※中央区（区内在住・在勤・在学者）か奈良まほろば館（どなたでも）かどちらか一方でお申し込みください。

奈良県マスコットキャラクター
せんとくん
©NARA pref.
http://www.pref.nara.jp/

奈良県では、2017年9月1日（金）から11月30日（木）までの間、「第32回国民文化祭・なら2017」と「第17回全国障害者芸術・文化祭なら大会」を、全国初の取り組みとして、一体開催します。期間中、奈良の文化・芸術を全国に発信するため、県内各地でさまざまなイベントを行います。詳細はホームページ（http://nara-kokushoubun.jp/）をご覧ください。

連携講座　③－10【岡山大学】　定員60名

◆科学技術の最前線

主　題　文部科学省の「研究大学強化促進事業」、「スーパーグローバル大学創成支援事業」に選定されている岡山大学は、大学の「研究の質」を測るTop10%補正論文数（2009年～13年同省科学技術・学術政策研究所発表）の伸び率でも全国の大学中第二位と注目されております。

今年度は、工学、生物学領域において、岡山大学で画期的な研究に取り組んでおられる先生方から最先端技術を紹介します。

講座番号　③－10

時　間：午後6時30分～8時30分
場　所：築地社会教育会館
回　数：4回
受講料：1,200円

回数	日程	講義内容	講師名
第1回	11/10（金）	新しい光「テラヘルツ波」で見えてくる明るい未来 ～テラヘルツ波計測システムの開発と応用～	紀和　利彦
第2回	11/17（金）	未来の電子材料グラフェンの大量合成技術の開発と用途展開 ～身近な材料で最先端のナノテクに挑む～	仁科　勇太
第3回	11/24（金）	光合成水分解の仕組み ～光と水からエネルギーと酸素へ～	沈　建仁
第4回	12/　1（金）	歯を失った際に現状でできることと将来展望 ～口腔インプラントと再生医療～	窪木　拓男

講師紹介

紀和　利彦（きわ　としひこ）

岡山大学大学院自然科学研究科准教授。1976年奈良県生まれ。大阪大学大学院工学研究科電気工学専攻修了。博士（工学）。光と電波、両方の特徴を兼ね備えたテラヘルツ波を使ったさまざまな計測装置を開発。2017年3月まで応用物理学会テラヘルツ電磁波技術研究会委員長を務めるなど、テラヘルツ波工学の普及・発展へ貢献。開発したテラヘルツ波ケミカル顕微鏡は学術誌Nature Photonicsや一般商用誌プレジデントに紹介されるなど、産学で注目を集めている。

仁科　勇太（にしな　ゆうた）

岡山大学異分野融合先端研究コア准教授。1984年生まれ。2010年岡山大学大学院修了。博士（工学）。次世代材料として期待されている“ナノ炭素”の合成法や用途開拓を行っている。大量合成が非常に困難であった、原子1個分の厚みの新材料“グラフェン”を身近な炭素材料である黒鉛から作り出す技術を確立。国内外の企業や大学と数多くの共同研究を実施している。2012年ベンチャー企業設立。JST、NEDO、農水省、環境省など、複数のプロジェクトを実施し、グラフェン材料の基礎から応用まで一気通貫型の研究開発を展開。

沈　建仁（しん　けんじん）

岡山大学異分野基礎科学研究所副所長、教授。1961年中国生まれ、1990年東京大学理学博士。植物などの光合成反応、太陽の光エネルギーを利用して水を分解する仕組みを研究している。この反応を行っているタンパク質光化学系Ⅱ複合体の原子レベル構造をSPring-8の放射光X線を用いて世界で初めて解明した。その成果はScience誌（米国）（2011年）においてその年に世界で最も革新的であった10大科学ニュースの一つに選出された。朝日賞（2012年度）、みどりの学術賞（2017年）など多くの賞を受賞。

窪木　拓男（くぼき　たくお）

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科教授。1962年生まれ。1990年岡山大学歯学研究科修了、歯学博士。1994年から、米国UCLAに留学。専門は、インプラント再生補綴（ほてつ）学。臨床家として、歯科医療の最前線に立つだけでなく、生活の質、栄養管理など、患者の視点から歯科医療を研究、解説する。その一方で、歯槽骨、関節軟骨、歯胚再生の基盤研究に精励する。最近では、歯の再生医療に取り組み、イヌの永久歯再構築の研究が多方面で報道されている。

連携講座　③－11【金沢大学】　定員60名

◆金沢を知る

託児付
【対象】
2歳半～
未就学児

主　題　平成22年度から開講しているこの連携講座も、「金沢を知る」と題し3年目を迎え、これまでにさまざまな金沢を発信してきました。

今年度は、新幹線の開業から3年目となる今、金沢のイメージが従前からどう変化したかについて、訪問者のＳＮＳなどを素材にした分析に始まり、古代北加賀（後の金沢市域にあたる）地域においてどのような社会が形成されていたか、諸豪族の活動や統治のあり方を考えます。また最終回には、雨が多く水災害に見舞われてきた石川県ならではの、龍蛇や怪鳥＝水の神をめぐる歴史と伝承についての考察をお届けします。

金沢のまさに「今」を知り、「古代・中世」の金沢についての興味・関心を深めることで、金沢の「新たな魅力」発見へとつなげます。

講座番号　③－11

時　間：午後2時～3時30分
場　所：築地社会教育会館
回　数：3回
受講料：900円

回数	日程	講義内容	講師名
第1回	11/25（土）	金沢のイメージと、その変容	伊藤　悟
第2回	12/　2（土）	古代の北加賀を考える	吉永　匡史
第3回	12/　9（土）	ラグーンに棲む異類と水災の記憶	黒田　智

講師紹介

伊藤　悟（いとう　さとる）

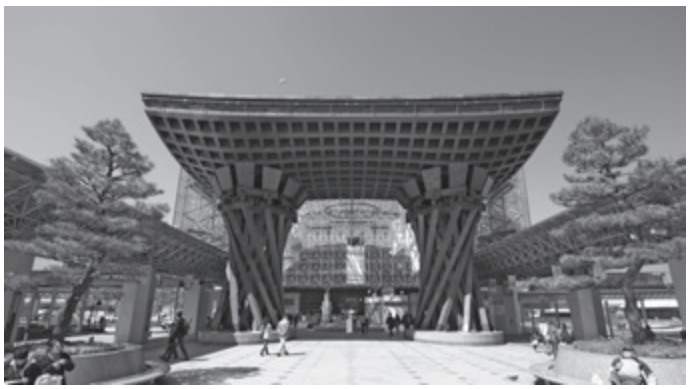
金沢大学人間社会研究域教授。地域創造学類地域プランニングコース担当。理学博士。筑波大学第一学群自然学類卒業、同大学院博士課程地球科学研究科修了。専門は地理学。

吉永　匡史（よしなが　まさふみ）

金沢大学人間社会研究域准教授。人文学類歴史文化学コース担当。博士（文学）。九州大学文学部史学科卒業、東京大学大学院人文社会系研究科日本文化研究専攻修了。専門は日本古代史。

黒田　智（くろだ　さとし）

金沢大学人間社会研究域教授。学校教育学類教科教育学コース担当。博士（文学）。早稲田大学第一文学部史学科卒業、同大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学。専門は日本中近世史。



鼓門（金沢駅）写真提供：金沢市

連携講座　③－12【朝日新聞社】　定員60名

◆朝日新聞記者が時事を読み解く
平成の終わりを見据えて

主　題　「平成」の時代は天皇陛下の退位に伴い、おおむね30年で終わる見通しとなりました。「平成」は日本独自の元号ですが、この30年を振り返ると、国内外で大きな変動が起きた時期でもありました。

平成の幕開けとともに国内ではバブル経済が崩壊。海外へ目を向ければ、東西ドイツの統一やソビエト連邦の崩壊をきっかけに、国境を越えた人やお金、情報の行き来が増えました。それをインターネットなどの技術革新が後押しし、あらゆる局面で「グローバル化」が叫ばれるようになりました。その結果、何が起こり、これからどう変わろうとしているのか。朝日新聞のベテラン記者が最新のニュースを解説します。

※講師と講演のテーマは変更される場合があります。

講座番号　③－12

時　間：午後3時30分～5時
　※第3回は午後1時～2時45分
場　所：朝日新聞東京本社
　　2階読者ホール
回　数：5回
受講料：1,500円

回数	日程	講義内容	講師名
第1回	1/16（火）	トランプ政権と日本	小村田　義之
第2回	1/23（火）	イスラム国～その政治・歴史的背景～	平田　篤央
第3回	1/30（火）	朝日新聞東京本社内見学（午後1時～2時45分）	
第4回	2/ 6（火）	平成の皇室～皇位継承に向けて～	北野　隆一
第5回	2/13（火）	バブル崩壊を超えて～平成の経済を総括する～	小陳　勇一

講師紹介

小村田　義之（こむらた　よしゆき）

朝日新聞論説委員（政治・外交防衛担当）。1967年茨城県生まれ。日立製作所を経て92年入社。四国総局、大阪社会部、政治部で自民党、公明党、旧防衛庁、外務省を担当。ワシントン特派員、編集センター次長を経て現職。米国ではスティムソン・センター客員研究員も経験。オバマ氏がチェンジを唱えて初の黒人大統領になった大統領選を取材した。

平田　篤央（ひらた　あつお）

朝日新聞論説委員（国際担当）。横浜市生まれ。1985年入社。プノンペン、バンコク、テヘラン特派員を経て中東アフリカ総局長（カイロ）。アフガン戦争、イラク戦争、イスラエル・パレスチナ紛争などを取材。GLOBE編集長代理を経て現職。共著に『クルドの肖像～もう一つのイラク戦争』（彩流社）。

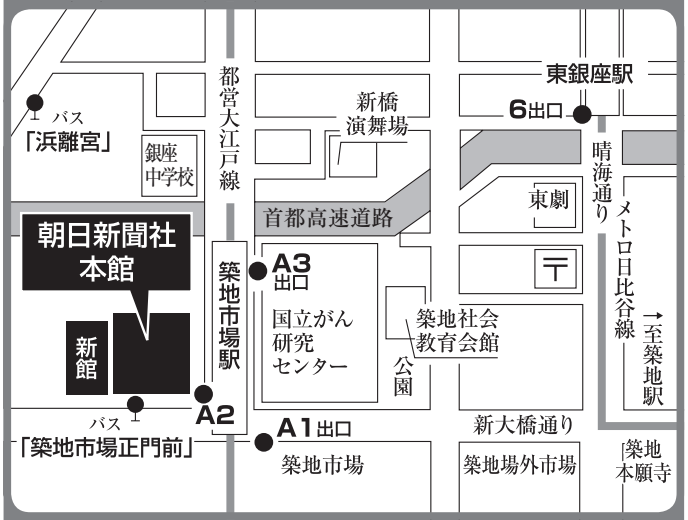
北野　隆一（きたの　りゅういち）

朝日新聞編集委員。岐阜県生まれ、1990年入社。新潟、宮崎県延岡、北九州、熊本に赴任し、2001～02年に米ハーバード大学日米関係プログラム研究員。東京本社社会部次長を経て14年から現職。社会部で警視庁や宮内庁を担当し、皇室や北朝鮮拉致、水俣病問題など取材。共著に『徹底検証　日本の右傾化』（筑摩選書）など。

小陳　勇一（こじん　ゆういち）

朝日新聞論説委員（経済担当）。1963年福岡県生まれ。87年入社。東京本社経済部で農水省、旧運輸省、財務省、金融庁などを担当した後、ワシントン特派員として米国の経済政策や国際経済を取材。東京経済部次長、GLOBE編集長代理、東京経済部長などを経て2017年4月から現職。

会場図



中央区築地5－3－2

連携講座　③－13【京都館】　定員80名

明治維新150周年記念
◆京都講座　～明治維新　その時、京都は～

主　題　江戸幕府の体制が崩壊し、近代国家形成の契機となった一連の政治社会の大変革「明治維新」から2018（平成30）年で150年。この節目の年を記念して、封建社会から近代社会への変革に歓喜する当時の庶民の様子や、東京遷都後、文化・観光の重要性を再認識し、近代化を推し進め、今もなお日本文化の中心であり続ける礎となった当時の京都について、坂本龍馬研究の第一人者である霊山歴史館の木村幸比古副館長が解説します。

また、京都観光おもてなし大使の塩原直美氏が、ダイナミックな変貌を遂げた明治維新後の京都に着目し、現存する当時の建造物や天皇不在となった京都の人々の動揺に灯（ともしび）を与えた立役者たちの紹介などを通して、皆さんを明治初期の激動の京都へとお誘いします。

※京都市のアンテナショップ「京都館」（東京駅八重洲中央口正面）
URL:http://kyotokan.jp/

講座番号　③－13

時　間：午後7時～8時30分
場　所：日本橋社会教育会館
回　数：2回
受講料：600円
定　員：80名（区民カレッジ枠）
※その他、京都市（「京あるきin東京2018」）でも受講生を募集します。区外の方もお申込みできます。（12月下旬募集予定）

回数	日程	講義内容	講師名
第1回	2/14（水）	なぜ今！明治維新なのか～改革から刷新へ～	木村　幸比古
第2回	2/21（水）	明治時代の京都を歩く ～スタートラインに立った京、ダイナミックに変わった都～	塩原　直美

講師紹介

木村　幸比古（きむら　さちひこ）

幕末維新ミュージアム霊山歴史館副館長・歴史家（近世思想史、幕末史）。京都出身、國學院大學卒業。維新史の研究と博物館活動で文部大臣表彰、京都市教育功労者表彰を受ける。NHK大河ドラマ「徳川慶喜」「新選組！」「龍馬伝」「花燃ゆ」「西郷どん」企画委員。京都市大政奉還プロジェクト学術顧問。著書『土方歳三』（学研M文庫）『新撰組京をゆく』『近藤勇』（淡交社）『新選組全史』（講談社選書メチエ）『沖田総司』『龍馬暗殺の謎』（PHP新書）『図説·吉田松陰』（河出書房新社）『幕末志士の手紙』（教育評論社）など。

塩原　直美（しおばら　なおみ）

京都商工会議所「京都検定講演会」講師。國學院大學卒業。20代に東京から京都へ移住し、見聞に明け暮れる。帰京後、フリー記者として日刊ゲンダイなどに執筆するかたわら、京都市のアンテナショップ「京都館」に7年間勤務。現在は京都検定1級取得を生かし、観光アドバイザー、京都カフェ実行委員長としてフリーで活動中。BS朝日「京都ぶらり歴史探訪」ブレーン、朝日新聞デジタル「京都旅レシピ」コラム連載。2014年4月より京都市の「京都観光おもてなし大使」に就任。修学旅行事前学習で中・高校へも出張講義している。

錦絵　東京御神酒頂戴之図

南禅寺水路閣

平安神宮

連携講座　③－14【早稲田大学エクステンションセンター八丁堀校】　定員30名

◆漢方と手のツボ健康法

主　題　健康とは自分で守るものであり、「治す」に終始するよりも「治るようにする」ことが大切です。現在、健康についての情報は数多く氾濫していますが、これらの情報を整理するには系統的な健康観を知ることも大切です。中でも、いまだ知られざる漢方医学の考え方を知ることは、新たなる健康観を実感することに役立つでしょう。

この講座では、漢方医学の考え方に基づき、「手のツボ」を用いて脊椎の歪みが正されるようにし、健康となるための条件を体に与えることを学習していきます。身体に備わっている自然治癒力を十分に発揮させることで、「治るようにする」ことのポイントをお伝えし、その驚くべき効果について皆さんと共有したいと思います。なお、講義は座学と実技を併用して行います。

講座番号　③－14

時　間：午後3時～4時30分
場　所：早稲田大学
　　エクステンションセンター八丁堀校
回　数：10回
受講料：7,000円

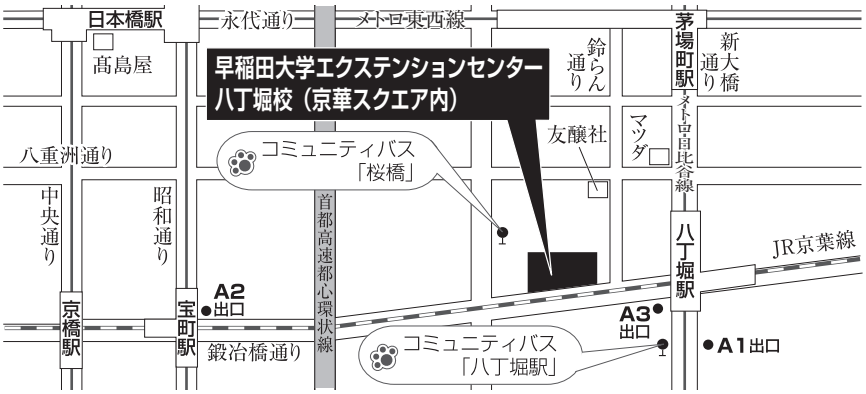
回数	日程	講義内容
第1回	10/10（火）	漢方の考え方①
第2回	10/17（火）	漢方の考え方②
第3回	10/24（火）	漢方の考え方③
第4回	10/31（火）	手のツボの各論編①
第5回	11/ 7（火）	手のツボの各論編②
第6回	11/14（火）	手のツボの各論編③
第7回	11/21（火）	手のツボの各論編④
第8回	11/28（火）	手のツボの各論編⑤
第9回	12/ 5（火）	手のツボの各論編⑥
第10回	12/12（火）	手のツボの各論編⑦

講師紹介

織田　啓成（おだ　ひろなり）

薬剤師・鍼灸師、元衛星テレビ「暮らしの中の漢方」講師、丹平漢方専任講師、埼玉県療術師会専任講師。東京都生まれ。東京薬科大学卒業。専攻分野は漢方医学（漢方薬･針灸医学）。著書に『手の反射療法』、『足裏の反射療法』、『漢方医学概論』、『経路相関論』、『健康のメカニズム』、『大往生のための健康読本』ほか多数。

会場図



【交通】■ 地下鉄 日比谷線、JR京葉線「八丁堀駅」A3出口より　徒歩1分
■ 地下鉄 浅草線「宝町駅」A2出口より　徒歩7分

中央区八丁堀3－17－9 京華スクエア3階
☎5117－2073

連携講座　③－15【早稲田大学エクステンションセンター八丁堀校】　定員30名

◆江戸に下向した天皇・公家の娘たち

主　題　江戸時代の公家の娘たちの進路は、婚姻か奥勤めが一般的でした。もちろん、なかには婚姻後に奥勤め、奥勤め後に婚姻する者や、入寺する者もいたので、二者択一というわけではありません。ただ、その婚姻先・勤め先が武家であることも多いのが、この時代の特徴です。

そこで、この講座では、江戸、とりわけ江戸城大奥に向かった娘たちを取り上げます。生まれ育った京都を離れ江戸へ下る彼女らも、自分の意志による場合とそうではない場合がありました。しかし、どちらにしても、武家社会・家社会の枠組みのなかで、自分たちの役割を自覚し行動した女性たちから学べることは多いはずです。

講座番号　③－15

時　間：午前10時30分～正午
場　所：早稲田大学
　　エクステンションセンター八丁堀校
回　数：10回
受講料：7,000円

回数	日程	講義内容	講師名
第1回	10/11（水）	将軍御台所の選定と大奥	久保　貴子
第2回	10/18（水）	徳川綱吉時代の大奥女中・側室	
第3回	10/25（水）	綱吉の養女　八重姫	
第4回	11/ 8（水）	綱吉の養女　竹姫	
第5回	11/15（水）	柳沢吉保の側室　正親町町子	
第6回	11/22（水）	将軍御台所　近衛熙子	
第7回	11/29（水）	徳川吉宗時代の公武婚姻	
第8回	12/ 6（水）	徳川家慶時代の大奥	
第9回	12/13（水）	和宮の大奥生活	
第10回	12/20（水）	政情に翻弄された幕末の女官	

講師紹介

久保　貴子（くぼ　たかこ）

早稲田大学・昭和女子大学講師。岡山県生まれ。早稲田大学大学院文学研究科史学（日本史）専攻博士後期課程満期退学。博士（文学、早稲田大学）。専門は日本近世政治史。近年は古文書講座などの講師を務めることも多い。主な著書に『近世の朝廷運営』（岩田書院）、『徳川和子』（吉川弘文館）、『後水尾天皇』（ミネルヴァ書房）など。

連携講座　③－16【早稲田大学エクステンションセンター八丁堀校】　定員30名

◆大江戸のくらしと文化

主　題　百万都市江戸は、その名が示すとおりの大都市であり、「ひと」や「もの」が集まる最大の拠点でした。大都市江戸には、季節の移ろいにあわせたさまざまなひとの「くらし」がありました。そうした中で、今日でもイメージされる「江戸っ子」が登場しました。そして、この江戸っ子たちに支えられて発展していった文化に「江戸歌舞伎とその周辺」があります。

この講座では、大都市江戸のようすについて、まず「くらし」という視点からのアプローチを試み、そこからさらに展開して、芝居や絵画資料を用いることで、より深く理解していこうと思います。

講座番号　③－16

時　間：午後3時～4時30分
場　所：早稲田大学
　　エクステンションセンター八丁堀校
回　数：5回
受講料：3,500円

回数	日程	講義内容
第1回	10/12（木）	東都歳時記・上半期
第2回	10/26（木）	ほんとうの江戸っ子とは
第3回	11/ 9（木）	お富・与三郎
第4回	11/16（木）	死絵をよみ解く
第5回	12/ 7（木）	東都歳時記・下半期

講師紹介

加藤　征治（かとう　せいじ）

国立歴史民俗博物館職員。1976年東京都生まれ。博士（文学・総合研究大学院大学）。専攻は近世芸能史、近世都市構造、浮世絵研究。共著に『ライデン国立民族学博物館・国立歴史民俗博物館所蔵　死絵』（2016年）など。

連携講座　③－17【早稲田大学エクステンションセンター八丁堀校】　定員30名

◆舞台・芸能の楽しみ

主　題　「舞台」はなぜ楽しいのでしょうか？　「生」、「ライブ感」が味わえるからです。「でも、『歌舞伎』なんかは敷居が高そうで…」。そんなことはありません。

この講座では、同じ物を観ても、二度と同じ舞台には出会えないその貴重さと「楽しさ」を、日本の芸能を中心にお話しします。最終回の「まとめ」では、受講生の皆さんからのご質問もドンドン受け付けますので、この機会に、ぜひ舞台の楽しみを知ってください。その先に待っているのは…。

講座番号　③－17

時　間：午前10時30分～正午
場　所：早稲田大学
　　エクステンションセンター八丁堀校
回　数：5回
受講料：3,500円

回数	日程	講義内容
第1回	10/13（金）	敷居が低い『歌舞伎』の話
第2回	10/20（金）	365日が『ミュージカル』！
第3回	10/27（金）	100年前からある日本の『新劇』
第4回	11/10（金）	みんな大好き『落語』の世界
第5回	11/17（金）	日本の芸能・総まとめ

講師紹介

中村　義裕（なかむら　よしひろ）

演劇評論家、日本文化研究家。1962年生まれ。今までに、ジャンルを問わず6,000本以上の演劇に触れ、その魅力をウェブサイト「演劇批評」で伝えている。また、日本の伝統文化に関する研究を幅広く行い、「真の国際化は日本を知ることから」をテーマに、多くの講演活動をしている。主な著書に『九代目　松本幸四郎』（三月書房）、『日本の伝統文化しきたり事典』（柏書房）など。

連携講座　③－18【早稲田大学エクステンションセンター八丁堀校】　定員30名

◆英語で紹介する日本

主　題　この講座は、基礎～初級レベルの英語運用力をお持ちの方が、日本の文化を、英語で簡単に紹介できるようになることを目的としています。英語での簡単なボランティアガイドなどに興味がある方に、特にお勧めの内容です。全10回の講義では、さまざまなクラスアクティビティを介して、必要な知識とスキルの習得を目指しますが、講義そのものはユーモアを交え、楽しく、くだけた形で進めたいと思います。
Welcome Everybody!

講座番号　③－18

時　間：10時30分～正午
場　所：早稲田大学
　　エクステンションセンター八丁堀校
回　数：10回
受講料：7,000円

【対象】基礎～初級レベルの英語運用力をお持ちの方。具体的な目安は、以下の通り。
TOEIC：～500点程度まで
TOEFL iBT：～50点程度まで
英検：3級～準2級程度まで

※レベルや内容などについてのお問い合わせは八丁堀校（5117－2073）担当までご連絡ください。

回数	日程	講義内容	講師名
第1回	10/16（月）	領土、気候	Robert L.Plautz
第2回	10/23（月）	歴史、日本人の特性	
第3回	10/30（月）	日本を旅する（交通事情、治安）	
第4回	11/ 6（月）	日本を旅する（観光名所）	
第5回	11/13（月）	家庭、ライフスタイル	
第6回	11/20（月）	食べ物、飲み物	
第7回	11/27（月）	国民の休日	
第8回	12/ 4（月）	スポーツ、東京オリンピック	
第9回	12/11（月）	日本美術、文化①	
第10回	12/18（月）	日本美術、文化②	

講師紹介

Robert　L.Plautz（ロバート　プラウツ）

翻訳家。アメリカ、ミシガン州出身。1983年ブリガム・ヤング大学（歴史専攻）にて、最優等（Summa Cum Laude）で学士号を得る。1984年10月東京外国語大学へ留学し、日本の近代史の研究を行う。1988年コロンビア大学（ジャーナリズム学部）にて修士号を得る。1988～89年ルイジアナ州シュリーブポートジャーナル社にて、社説担当副編集長として従事。国際交流員として大分県企画調整課に勤務、平松知事の通訳を行う。

連携講座　③－19【早稲田大学エクステンションセンター八丁堀校】　定員30名

◆体感するアートプログラム
～みる・しる・さわる～

主　題　日常の中でアートはどのような立ち位置でしょうか？仮に美術作品がこの世からなくなったとしても、困る人はそう多くないかも知れません。まずは、自分の身の回りに起きていることと、アートを関連付けて考えてみることから始めてみましょう。

美術鑑賞は実際に触れてみる、やってみるというように、行動を起こすことが理解を深めることにつながります。グループワークやレクチャー、時には創作体験を通して、美術作品を鑑賞するという経験を、より身近なものとして楽しめるようになるアートプログラムです。

講座番号　③－13

時　間：午後１時～２時30分
場　所：早稲田大学
　　エクステンションセンター八丁堀校
回　数：５回
受講料：3,500円

※美術鑑賞の初心者を対象にした講座です。美術鑑賞や美術史に関する事前の知識は必要ありません。

回数	日程	講義内容	講師名
第１回	11/10（金）	アートカードワークショップ	澤田　将哉
第２回	11/17（金）	アート×生活	
第３回	11/24（金）	アート×旅	
第４回	12/　1（金）	身近なものをアートに変える①　－デモンストレーション－	
第５回	12/　8（金）	身近なものをアートに変える②　－創作体験－	

講師紹介

澤田　将哉（さわだ　まさや）

美術家、国立新美術館学芸課教育普及室研究補佐員。1986年生まれ。多摩美術大学大学院美術研究科博士後期課程美術専攻修了。博士（芸術、多摩美術大学）。専門は金属工芸（鍛金）。2016年より国立新美術館学芸課教育普及室研究補佐員として、アーティストワークショップや建築ツアーの企画運営、鑑賞ガイドの作成などに携わる。美術家として「ドイツ・アメリカ６都市巡回展」や「釜山国際彫刻祭」などに参加する傍ら、市民を対象とした創作体験型ワークショップの講師を担当している。